

地域連携センター

NEWS

2011.07
tel & fax
026-295-1325
chiiki@seisen-jc.ac.jp

地域団体との連携強化と拡大

地域連携センター長 小林敏枝

地域連携センターは、大学と地域とのつながりの強化と拡大を目指し、教育・保育・子育て支援・地域づくり・観光等の分野で本学の独自性を活かした活動をしています。すでに「長野市」「小川村」「長野県障がい者スポーツ協会」「NPO法人夢空間松代のまちと心を育てる会」「須坂市」「信州産学官連携機構」「特別支援学校交流提携校」など、各団体と連携事業を実施。これらの活動を通じ、本学の知の財産を地域に還元すると同時に、地域のニーズと本学の教育活動とがマッチし、win-winの関係を構築することが重要です。

また、本プロジェクト事業を通じて、センターが組織として地域連携事業開発のノウハウを形成することも目指しています。

今後も活動を積み重ね、地域とセンターの良いサイクルができてくることを期待しています。

現在、地域・学生・教員が一体となつて「地域連携プロジェクト」を始動させています。学生と教員が地域の団体と連携して活動するものであり、具体的には女子学生の感性を生かして、信州の自然・文化・生活等の魅力発見や地域づくりプログラムの提案、観光客誘致、地域活性化を目指しています。

生涯学習

スペイン語講座開設

今年度、初めて語学講座としてスペイン語講座が開講され、マチャド・ジョルダンカ先生の指導の下、10名の地域の皆さんがスペイン語を学んでいます。

語学講座の楽しみ

スペイン語講座 森本俊子

外国に旅をするなら「せめてはいさつぐらいいはその国の言葉で」などとよくいわれますが、旅から

「マザーテレサの生き方に学ぶ」

記念講演会

— 映画監督 千葉茂樹

の生き方に学ぶ

師 千葉茂樹氏

5月18日、短大創立30周年、専攻科設置50周年の感謝の集いにおいて、映画監督の千葉茂樹氏（日本映画学校長）の記念公開講演会を開催しました。テーマは、「マザーテレサの生き方に学ぶ」。マザーのノーベル平和賞受賞に際してテレビで放映したという短いドキュメンタリー映画と、千葉氏の講演に一同聞き入り深く感動しました。



師 千葉茂樹氏

路上で死んでいこうとする人を「死を待つ人の家」に運び入れ、最後の最後まで世話をして看取るシスターたち。誰からも必要とされないということこそ貧困以上の貧しさである。せめて亡くなる前に、「私も生まれてきてよかった」という思いを抱くことができるよう、

人間の尊厳にふさわしい死を遂げさせてあげたい。その思いは彼らに通じ、たいいていの人は「ありがと」といって亡くなっていくそうです。あるとき、困窮家庭にお米を持っていくと、その半分を隣の同じく貧しい家族のところを持つていって分けた。貧しい人たちからは、学ぶことが多いとマザーは言います。

短い時間ではありましたが、人間中心の考え方、効率的、合理的に行うことよりも真心込めて行うことの大切さを学ぶことのできた1時間半でした。

■秋学期開放講座一覧 授業料 各講座 10,000円

講座名	担当者
精神医学	吉川 武彦
発達心理学（青少年発達）	田村 俊輔
心理学概論	中澤 保生
学校臨床心理学	眞榮城和美
学習心理学	中澤 保生
英語音声学	中村 洋一
英文法	室井美稚子
英語基礎Ⅲ	田村 亮子
キリスト教概論	田村 亮子
比較文化論	小泉 真理
比較文学	芝山 豊
自己発見の方法	田村 亮子
聖書	古橋 昌尚
英米の文学	村田 信行
歴史学入門	齋藤 寛海
ジェンダー論	小泉 真理
道德教育の研究	田村 俊輔
自然科学概論	江尻 正一

■長野県カルチャーセンターとの提携講座

講座名	期日
やさしい心理学 (13:30~15:30)	
感謝の心理療法	8月27日
物語の深層	9月10日
記憶の心理学	10月1日
コミュニケーションの心理学	10月8日
睡眠の心理学	11月12日
世界の歴史と文化を訪ねる (10:30~12:30)	
講座名	期日
ローマ～西欧文化歴史の旅～	8月27日
アメリカ音楽のルーツをたどる	10月8日
イギリス～歴史と文学を訪ねて～	10月22日

*提携講座についての詳細は、長野県カルチャーセンター（☎026-224-2233）にお問い合わせください。

■公開講座一覧

講座名	担当者名	期日	曜日	時間	場所
美術検定対策講座	山貝 征典	8月20日・10月22日	土	10:00~12:00	生涯学習センター
韓国・朝鮮文学を味わう	富岡 聖子	9月24日・10月1日	土	10:00~12:00	
こころの健康とは	吉川 武彦	10月2日	日	14:00~15:30	
テストは必要か?	中村 洋一	10月22日	日	10:00~12:00	
心をひきつける話し方	佐田 亮文	11月5日・11月19日	土	10:00~12:00	
マナー講座～日常のマナー～	高沢 貴子	11月5日・11月19日	土	10:00~12:00	

*開放講座・公開講座について、受講料など詳細は地域連携センターへお問い合わせください。

帰ってくる、あらためてそのことを実感します。そして、日がたつにつれ、その意気込みを忘れて、つたない英語でも10年も勉強したのだからなんとかなるだろうという勝手な理屈で勉強をやめてしまっています。

外国語としての英語を学んだ外国人同士（一人は私）が、一応コミュニケーションできたときの喜びは感じたことがあります。ほかの国の言語（たとえばスペイン語）を学ぶと、その国の文化や暮らしが、日本人には想像できないものだったと分かったりして、驚いたり感心したりすることもあるかもしれません。そのように学べる講座は、その国を旅するのと同じ楽しみを与えてくれるような気が

します。

スペイン語講座では、ジョルダンカ先生の母国キューバのことやほかのスペイン語圏のお話が聞けて毎回楽しく過ごしています。

第13回映画を読む

7月3日(土)、長野ロキシーで公開講座「第13回映画を読む」を開催。127名の方が来場されました。

本年度は、河瀬直美監督の「玄牝」を鑑賞し、芝山教授による講義が行われました。あるがままにいのちと向き合う女性たちの姿を目の当たりにし、今を生きる私たちも深く考えさせられました。



ボランティア

学部・短大での取り組み

5月16日の学部キャンパス・アワーの時間に、ボランティア活動について考えました。震災後、宮城県でボランティア活動を行った短大の林あかりさんを招き、3月に八戸市で現場を体験した本学教員山貝征典先生とともに現地での活動の様子を話してもらいました。その後、ボランティア担当教員よりボランティア保険や交通費など、ボランティア活動時の注意点について話がありました。

短大では、5月30日にAC長野パルセイロの皆さんを招き、「地域活動のすすめ」を開催しました。パルセイロはホームゲームやキッズアカデミーなど、年間多くの学生がボランティアに参加しているスポーツクラブなので、皆興味深く聞いていました。



ボランティア報告

東日本大震災

ボランティアに参加して

国際COM科2年 林あかり

私は宮城県石巻市で4月11日から1週間ボランティア活動を行ってきました。現地に入ると周りは瓦礫ばかりで、わずかな土地の高低や少し場所を移動しただけでも状況が大きく違い、津波の恐ろしさと被害の大きさを改めて感じました。私は各避難所へ行きアセスメント活動を行いました。被災した方々はたくさんの不安と長い集団生活のためにストレスを抱えていて、これからよりきめ細かなケアが必要と強く感じました。長野に帰るとお店には新鮮な商品があり、それがすぐ買えるという状況に驚いてしまうほど被災地は違う国のようでした。私たちは被災した人のことをもっと考え、一緒に復興していかなければならない、そして見聞きしてきた現地の状況とともに、私はそれを多くの人に伝えなければならぬと思います。

今後の主なボランティア活動予定表

月	活動
7月	「小布施見」にマラソン サマーチャレンジボランティア
8月	東御市梅野記念絵画館スケッチ大会 長野びんずる
9月	長野県障がい者スポーツ大会 ふれあいまつり
10月	長野県障害者技能競技大会 松代藩真田十万石まつり 全日本フロアホッケー競技大会
11月	軽井沢ツデーウォーク
12月	縁川キャンドルナイト
2月	長野市フロアホッケージュニア交流戦 長野灯明まつり
3月	SBCこどもフェスタ
通年	パルセイロボランティア

楽しいよ！

スポーツボランティア

幼児教育科1年 笹平さつき



ボランティア活動には子どものスポーツ補助や試合の運営補助などたくさん活動があります。なかでもパルセイロホームゲームボランティアは最高です。試合を見ることもできるし、サポーターの方々と観客とも親しくなり、なにより選手と近い！ サッカーが好き嫌いと関係なく楽しくできます。パルセイロキッズボランティアもあります。キッズでは一緒にボールに親しむためにボールを使った遊びをしたり、野球・ドッジボールなどしたりします。子どものスポーツのボランティアは元気をもらい体力もつきます。どんなボランティアもすべて楽しい。ぜひ参加してください。

国際交流

ハワイ語学研修

今年2月13〜26日、初めて22名の学生がハワイのKaplan Community Collegeへ語学研修に行き、充実した2週間を体験してきました。

「ALOHA」を

感じた異文化体験

人間学部4年 塚原啓子

2月なのに冷房で風邪をひきそうになった。タオルケットを蹴飛ばすくらい暑い夜もあった。参加学生は毎朝バスでホームステイ先からハワイ大学カピオラニ短大(KCC)に通った。初日、学長から「ALOHAの精神を見つけてほしい」と言われた。午前は特別クラスで英語の授業。最初は聞き取れなかったが、終わるころには慣れてきた。午後はハワイ学。フラダンス、レイづくり等を体験し、美術館、マノア滝、真珠湾等へ出かけた。学内のインターナショナル・カフェでは世界各国の学生と話した。日本からの留学生も多く、頑張っている姿に刺激を受けた。3連休には海に山にシヨッピーングにと皆さんハワイを満喫。私もアラモアナとワイキキで海水浴を楽しんだ。また、ホストの勤務先でのボランティア活動にも参加した。抹茶の道具を持参し、日本の伝統文化も披露した。

語学研修は、日本語がまったく通じない空間に身を置き、途方に暮れる体験こそ価値があると思った。ある日、バスに乗る時、運転手に恐る恐る行き先を確認して乗り込んだら、周りの人が「next」と口々に教えてくれた時、「ALOHA」を感じた。素晴らしい異文化体験を通じ、ハワイが近い場所となった。プログラムの第1回生となったことを幸せに思

う。また、トーマス、中村洋一両先生のサポートに感謝したい。

精神的にも成長できた ハワイ研修

国際COM科2年 宮川 香

ハワイに行くのは初めてで、日本語が多く話されていて勉強になるのかと最初は思っていました。しかし、観光地以外では日本語を聞くことはなかったので、近所の方と話したりしているときや学校の授業など多くの場面で勉強になりました。同時に、ハワイアンカルチャーもすべてとてもいい研修でした。なにより現地の方々の心の温かさに触れ、私自身も考え直すこともあり、精神的にも成長できた研修でした。日本にはないハワイの方々とのコミュニケーションのしかたがとても私は好きでした。誰にでも気さくで親切でフレンドリーで、英語で話すのは難しかったけれど、そんな私にいららなくても皆さんのことを話してくれて、みんな大好きになりました。想像以上の収穫で、とても充実した2週間でした。

